国際政治学科創設30周年記念号の発刊にあたって（献辞）

『修道法学』第44巻第１号が，「国際政治学科創設30周年記念号」として発刊されるにあたり，ひとこと献じます。

国際政治学科は，米ソ両首脳が1989年12月のマルタ・サミットにおいて冷戦の終結を宣言した翌年，1990年４月に１学年定員80名の法学部国際政治学科として開設されました。

もちろん学部改組は単年度の準備で実現するはずもなく，複数年の作業を経ての新学科設置であったわけですが，20世紀後半の世界を長らく左右してきた冷戦時代が終焉を迎え，新たな国際関係の模索が始まったちょうどそのときに，本学において国際政治研究を専門領域とする新学科が設置されたことは，時宜にかなったことであったと言えるでしょう。ちなみに今でこそ，国際系の学部や学科を有する大学は本邦に数多く存在しますが，当時は全国でも２番目，西日本では初めての国際政治学科設置でした。

当時の設置趣意書には，「国際化の急速な進展に対応しつつ，平和と軍縮を基調とする国際平和文化とし広島の立場を踏まえて，国際政治・法及び平和問題を中心とした教育・研究の充実をはかり，『国際化の時代』に相応しい人材を養成し，もって社会の要請に応えんとする」とありました。

それから30年。2020年４月で，国際政治学科は満30歳になりました。2,000名以上の卒業生を社会に送り出してきたことになります。2020年に入り本格化した新型コロナ感染症の影響で，１年遅れにはなりましたが，本号は30周年を記念するものとして編まれました。

2018年４月に，国際政治学科は法学部から分離し，国際政治学科と地域行政学科の２学科編成の国際コミュニティ学部に拡大改組されました。両学科それぞれ１学年定員は75名，全体で150名の学部となりました。その設置趣意書には，「国際政治学科は，これまでの国際政治学科において行われていた国際政治学・平和学関係の教育・研究を継承発展させ，複雑化する国際社会を理解し，国際共通語としての英語に習熟して，広島から世界に発信することのできる人材を養成することを目的とし，地方行政学科は，国際政治学科において行われていた行政学・政策学関係の教育・研究と，「イノベーションブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト」において

設置された「地域イノベーションコース」の教育・研究を継承発展させ，地域社会の人々と協力して，地方創生に貢献することのできる人材を養成することを目的とする」とあります。

文字通り，国際コミュニティ学部は，法学部国際政治学科の伝統を基礎に，それを継承・発展させ，現代的課題に対応しながら教育・研究に当たろうとしています。折から学生の「社会人力」が社会から問われる傾向に配慮して，両学科とも初年次から積極的に学外学習の機会を確保し，国際政治学科であれば異文化交流する機会を，地域行政学科では地域課題の実際に触れる機会を提供しています。学外学習の体験が大学における専門知識の獲得と有機的に結びついていることを，学生一人一人が意識しながら学ぶ教育課程を体系化しています。

国際政治学科が歩んだ年月も，内外の情勢は絶えず激動しており，明日を担う若い世代には，ここ広島から世界や地域のあるべき姿を客観的に問うための確かな知識や優れた技能が求められています。国際コミュニティ学部では，そのような人材の輩出を日々の教育・研究活動を通じて実現できるよう，国際政治学科の創設から30年を回顧しつつ，より一層努力を重ねる所存です。関係各位の皆様には，これまでと同様にご指導とご鞭撻をお願い申し上げる次第です。

国際コミュニティ学部長　　矢田部　順　二